

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：NPO 法人 鴻巣こうのとりを育む会

代表者：代表理事 伊藤 鑄義

URL :

1. 活動が必要とされた状況

コウノトリの飼育・放鳥後の採餌場となる湿地を確保するには、現状の稲作農法のみでは困難である。冬期も田んぼに湛水しておく環境創造型稲作栽培を推進することは勿論であるが、休耕田を利用し湿地を再生することでも水辺・緑地空間の確保は可能である。

モデルとして、休耕田を利用した湿地を創出し併せて市内の小中学生にフィールド学習の場を提供し、コウノトリも棲める自然環境の大切さを訴える必要がある。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

湿地整備中ではあったが、市内小学生、馬室キャンプ体験広場利用者へ呼びかけ、生きもの観察、野鳥観察、野草観察を実施した。また、湿地整備隣接の草地に繁茂しているセイタカアワダチソウの駆除作業も行った。



(いきもの観察)



(野鳥観察)

①開催日

26年11月23日

②参加人数

21名

3. 活動の成果

整備した湿地、草地を利用した観察会では、参加者からは、「初めての体験であったが、自然のすばらしさに感動した。このような活動を永く続けて頂きたい」との声が寄せられた。外来種のセイタカアワダチソウ駆除は根気強く続けていく必要がある。

4. 今後に残された課題

休耕田の形を残し湿地としたので、渇水期になると高い位置の田んぼは、水がなくなる事がある。解決策を検討する必要がある。

また、コウノトリの餌場の確保のため、湿地化できる休耕田があれば、これをモデルとして、拡大を図る必要もある。



(セイタカアワダチソウの駆除)